

令和7年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立保谷第一小学校

全国学力学習状況調査（小学校第6学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	1二【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する。	64.4% (都66.9%) -2.5P	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの問題で正答率が60%を上回っている。都平均を大きく上回ったのは、1一、2三、3三(2)である。目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている。 ・語彙力、基礎的な言語知識が安定している。 ・自分の考えが伝わるように、要点を整理して書くことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最も正答率が低かった問題は3三(1)、都平均と比べて正答率が低かった問題は、1二、3一である。 ・複数の情報(資料・会話・記録・メモなど)を関連付けて読み取ること課題が見られた。文章だけでなく、図表や記録との繋がりに注目する活動を取り入れる。 ・文章の構成を考えたり、文章全体を構成を捉えて要旨を把握することに課題が見られた。話し合いや資料の意図を客観的に説明するために、記録や要約などの活動を取り入れる。
	3一【資料1】を読んで、思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する。	78.9% (都83.8%) -4.9P		
	3二(2)【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する。	58.9% (都56.2%) +2.7P		
	3三(1)【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する。	46.7% (都47.0%) -0.3P		
算数	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数のいくつ分になるかを書く。	25.6% (都29.7%) -4.1pt.	<ul style="list-style-type: none"> 正答率が都平均を大きく上回った問題は、3(4)、4(1)、1(3)である。3(4)は、異分母の分数の加法計算をすることができるかどうかをみる問題である。4(1)は、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる問題である。1(3)は、簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題である。いずれも約80～93%で、東京都の平均と比べて5～8ポイント高いところから、基礎的・基本的な算数の知識・技能は概ね定着していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通する単位分数が1/12であることは記述できたが、3/4と2/3が共通する単位分数のいくつ分かは記述できていない。数を構成する単位に着目し、既習の整数の計算に着目できるようにする必要がある。 ・角を作る二つの辺の長さの大小と角の大きさの大小を混同して捉えている。頂点を中心にして一つの辺を回転させて様々な角を作る活動では、角の大きさを辺の開き具合として捉えられるようにすることが大切である。 ・「10%増量」とは、1.1倍になっていることだと理解できていない。示された情報から基準量と比較量、割合の関係を捉えられるように、図・式・言葉で説明できるようにすることが大切である。 ・1プッシュの液体の重さを誤って270gや360gと捉えていると考えられる。複数の情報から場面に基づいて必要な数量を見だし、その関係を式や言葉の式に表現することができるようにすることが重要である。
	角をつくる二つの辺をそれぞれのはした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ。	80.0% (都83.3%) -3.3pt.		
	10%増量した詰め替え用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。	50.0% (都52.3%) -2.3pt.		
	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く。	53.3% (都55.5%) -2.2pt.		
理科	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。	14.4% (都12.8%) +1.6pt.	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの問題で60%以上の正答率かつ東京都の平均を上回る結果となった。特に、電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題(5年)では95.6%、赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題(4年)では87.8%と高い正答率になった。実験を行うことで実感を持った知識を身に付けることができ、定着につながったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正答率が最も低かったのは、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題(3年)である。金属の性質が知識として定着していないこと、複数の情報を組み合わせる正しいものを選択することに課題がある。 次に正答率が低かったのは、レタスの種子の発芽条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる記述問題(5年)、電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題(3年)である。新たな問題を見いだすこと、それを自らの言葉で表現することに課題がある。 次に正答率が低かったのは、顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかを見る問題(5年)で、約4割の児童が誤答している。
	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く。	42.2% (都33.4%) +8.8pt.		
	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ。	44.4% (都46.8%) -2.4%		
	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ。	58.9% (都47.3%) +11.6%		